

1

正六角形 ABCDEF において $\overrightarrow{AB} = \vec{a}$, $\overrightarrow{AF} = \vec{b}$ とする。

- (1) \overrightarrow{AC} , \overrightarrow{AD} , \overrightarrow{AE} を, それぞれ \vec{a} , \vec{b} で表せ。
- (2) 対角線 CE と DF の交点を P とするとき, \overrightarrow{AP} を \vec{a} , \vec{b} で表せ。
- (3) 対角線 BF と線分 AP の交点を Q とするとき, BQ : QF を求めよ。

2

平面上の異なる 2 つの定点 O, A と任意の点 P に対し, $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$, $\overrightarrow{OP} = \vec{p}$ とする。次のベクトル方程式はどのような図形を表すか。

- (1) $|\vec{p}| = |\vec{p} - \vec{a}|$
- (2) $|\vec{p}|^2 - 2\vec{a} \cdot \vec{p} = 0$

3

座標平面上に 3 点 O (0, 0), A (3, 2), B (1, 5) がある。

- (1) $\triangle OAB$ の面積を求めよ。
- (2) s と t が条件 $s \geq 0, t \geq 0, 1 \leq s + t \leq 2$ を満たすとき, $\overrightarrow{OP} = s\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OB}$ で定まる点 P の存在する範囲の面積を求めよ。

4

空間内に4点 O, A, B, C があり,

$$OA=3, OB=OC=4, \angle BOC = \angle COA = \angle AOB = 60^\circ$$

であるとする。3点 A, B, C を通る平面に垂線 OH を下ろす。

- (1) $\vec{a} = \vec{OA}, \vec{b} = \vec{OB}, \vec{c} = \vec{OC}$ とし, $\vec{OH} = r\vec{a} + s\vec{b} + t\vec{c}$ と表すとき, r, s, t を求めよ。
- (2) 直線 CH と直線 AB の交点を D とするとき, 長さの比 $CH : HD, AD : DB$ をそれぞれ求めよ。